

ザンビア滞在安全の手引き



在ザンビア日本国大使館
2026年7月改訂

目次

1 序言

2 防犯の手引き

(1) 防犯の基本的心構え

(2) 犯罪等発生状況

ア 当地の治安情勢

イ 地理的治安の傾向

ウ 最近の犯罪発生状況

(3) 防犯のための具体的注意事項

ア 住居

イ 外出時

ウ 生活

エ その他

(4) 交通事情

ア 概要

イ 対策

ウ 事故発生時の対応

(5) テロ・誘拐対策

ア 概要

イ 日本人・日本権益に対する脅威

ウ 対策

(6) 緊急連絡先

3 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

(1) 平素の準備と心構え

ア 概要

イ 在留届等の提出

ウ 緊急避難場所

(2) 緊急時の行動

ア 緊急時の連絡要領

イ 情報の把握と共有

ウ 身の安全の確保

(3) 緊急事態に備えてのチェックリスト

1 序言

ザンビア共和国（以下、ザンビア）は、8 か国と国境を接し、アフリカ大陸の南部に位置する内陸国です。1964 年の独立以降、国内 73 の民族を束ねる必要性という所与の困難に直面しつつ、国家の一体性と平和を維持してきました。周辺国における内戦や政情不安とは対照的に、初代カウンダ大統領（任期 1964～1991）時代の一党支配から脱却以降、複数政党制による民主的な選挙に立脚した政府が国政を担っています。

一方で、2021年8月に行われた大統領総選挙では、各政党関係団体による選挙活動が全土にわたる政党間の抗争や当地治安当局との衝突に発展し、複数の死傷者が出ましたが、その後平和裡に政権交代が実現しました。本年8月13日には大統領総選挙を控えており、7月現在、ザンビア全土で各政党関係団体による選挙活動が活発化しており、当地治安当局は警戒を強めるとともに、各国大使館も自国民に対し注意喚起を行っています。

海外で安全な生活を送るためには、私たち在外邦人が自らの安全を自らの手で守ることが基本です。日頃からの心構えと予防策次第で危険度は軽減できます。ご自身だけでなくご家族の安全確保のためにも、常に安全への意識を高く保つよう心がけてください。

本「安全の手引き」が、皆様の安全対策、特に防犯と危機管理の一助となれば幸いです。

2 防犯の手引き

（１）防犯の基本的な心構え

ザンビアの治安状況は日本とは異なり、高い警戒が必要です。安全を確保するためには、事前の情報収集と十分な準備が不可欠です。「自分の身は自分で守る」という意識を持って行動し、慣れからくる油断は禁物です。常に防犯意識を高め、犯罪被害を予防するよう努めてください。

（２）犯罪等発生状況

ア 当地の治安情勢

ザンビアはアフリカ諸国の中では比較的治安が安定していると言われますが、主要犯罪（殺人、強盗など）の発生率は、人口比で日本よりも高い水準にあります。邦人が多く利用するショッピングモールなどでも、窃盗、置き引き、ひったくり、スリといった一般犯罪や車上荒らしなどが報告されています。特に注意すべきは、治安情勢に影響を与える可能性のある以下の事象です。

（ア）政治的対立

過去の大統領選挙の際には、選挙期間中に政党支持者間や警察と政党支持者との間で衝突が起きたことが報告されています。例えば、2020年12月には、ルサカ州の高等裁判所付近で、野党党首（当時）の警察出頭に抗議するデモの最中に発砲事件が発生し、男性2名が死亡しました。また、2021年6月には、コッパーベルト州で与党（当時）関係者1名が何者かにナイフで首を刺されて死亡し、6名が負傷する事件も発生しました。これらの選挙活動に伴う治安情勢悪化に際しては、軍にも出動命令が出されたことがあります。

2025年には、南アフリカで逝去したルング元大統領の遺体搬送および国葬実施を巡り、ザンビア政府と、南アフリカでの埋葬を訴える遺族及び一部野党との間で係争が発生しました。この間、ザンビア政府は国民に対し、法を遵守し冷静に行動するよう度々呼びかけました。また、ザンビア当局は野党事務所周辺に装甲車を配備するなど、警戒を強める一幕もあ

りました。

本年8月13日には総選挙（大統領選挙含む）を控えており、6月現在、選挙キャンペーン期間がはじまり、ザンビア全土で各政党やその支持団体による選挙活動が活発化しています。これを受け、当地治安当局は警戒を強めるとともに、在ザンビア米国大使館は自国民に対して警戒するよう呼び掛けています。（<https://zm.usembassy.gov/security-alert-u-s-embassy-lusaka-zambia-potential-for-civil-unrest-during-zambian-election-season/>）

上記のような潜在的な不安定要素があることを認識し、日頃から現地メディア等から情報を収集し、デモや抗議活動などに巻き込まれないよう十分な注意が必要です。特に、選挙活動は一見すると陽気な音楽イベントのように見えますが、思わぬトラブルを避けるためにも、興味本位で近づいたり、写真撮影をしたりすることは絶対に控えてください。



(イ) 迷信・デマの流布による地域の不安定化

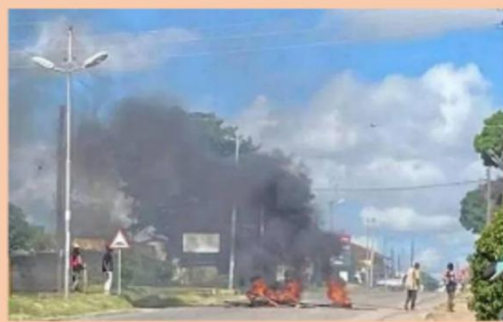
2019年末から2020年初頭にかけて、コッパーベルト州で発生した3件の殺人事件を契機に、地域住民による騒乱が発生しました。その際、「毒ガスが撒かれた」という噂が広まり、同様の混乱がザンビア各地に波及しました。その後の警察の調査で、毒ガスの事実はなく、噂を発端として群集心理から住民が暴徒化し、破壊・暴力行為に及んだことが判明しています。このような事態においては、デマに惑わされることなく、当局の公式発表の内容をよく確認し、冷静な行動を心がけることが重要です。

(ウ) 抗議活動等

2025年4月3日、コッパーベルト州チンゴラ（Chingola）において、ザンビア政府による環境保護を目的とした採石規制に抗議する群衆が暴徒化し、現地の店舗類に対して破壊・略奪行為が行われました。



チンゴラにおける採石規制への抗議デモの暴徒化の様相



ルサカでは、過去に複数のデモが暴徒化し、危険な事態を引き起こしています。例えば、2019年10月には抗議活動が暴徒化し、南アフリカ高等弁務官事務所（日本大使公邸裏手の道路沿い）前で車両放火が発生しました。

また、2025年には、ザンビア大学学生による事前通告のないデモにおいて、学生会長選挙の祝勝デモや、構内の劣悪な衛生状態に対する抗議デモの中で、投石事件が発生しました。これに対し当局が催涙弾で鎮圧するなど、同様の事案が複数回発生しています。



ザンビア大学学生による無許可デモの様相

2025年9月2日には、野党がイスラエル大使館再開に抗議するデモを警察の許可を得ずにザンビア外務省（日本大使館南）前で実施すると発表し、ソーシャルメディアで参加を呼びかけましたが、最終的には実施は認められませんでした。

これらの事例から、ルサカでは無許可又は予測不能なデモが突発的に発生し、容易に暴徒化して暴力や破壊行為に発展する危険性があることがわかります。関連情報に注意を払い、デモ現場には決して近づかないよう、警戒を怠らないでください。

（エ）アジア人に対する犯罪

ザンビアではアジア人に対して「裕福である」という印象が強いため、強盗殺人や窃盗などの犯罪のターゲットになるケースは少なくありません。特に2025年には、アジア人を狙った犯罪が増加傾向にありました。

日本人は現地で中国人に間違えられることも多く、ザンビア人から中国語で声をかけられることも珍しくありません。このように中国人だと誤認されることで事件に巻き込まれる可能性も否定できないため、多額の現金を携行、保管する際には、特に注意深く行動する必要があります。

（オ）経済状況悪化に伴う治安情勢の悪化

中東情勢や干ばつ等による物価高騰は貧富の差を拡大させ、職を求めて首都ルサカ等の大都市へ移動してきた若年貧困層による犯罪は増加傾向にあります。彼らは「ジャンキーズ」と呼ばれ、組織的な集団ではなく、安価な違法薬物等を摂取して徒党を組み、主に夜間に強盗、誘拐、窃盗等の犯罪行為に及んでいます。警察も一斉検挙を行う等対処していますが、効果は限定的であるため、特に夜間の外出を控えるなど、警戒を怠らないよう注意が必要です。

また、年末年始の時期は、当該地域において経済的負担が増大する傾向にあることから、窃盗等の犯罪発生件数の増加傾向が顕著になることがあります。十分にご注意ください。

イ 首都（ルサカ市）の傾向

タウン地域（Town）、カムワラ地域（Kamwala）、チボリヤ地域（Chibolya）といった地域は、他の場所に比べて体感治安が著しく悪化します。これらの地域に加え、最近では高所得者居住区であるカブロンガ地域（Kabulonga）などでも犯罪発生件数が増加しており、徒歩移動中に後方から車が近づき鞆をひったくられる被害や、ショッピングモールでアジア人男性が現金を奪われるといった被害も報告されています。2025年11月から12月にかけては、中国人が殺害される強盗事件がルサカ市内で複数発生しました。先に述べたように、日本人は中国人に間違われることが多く、これによって事件に巻き込まれる可能性も否定できません。そのため、十分な注意が必要です。

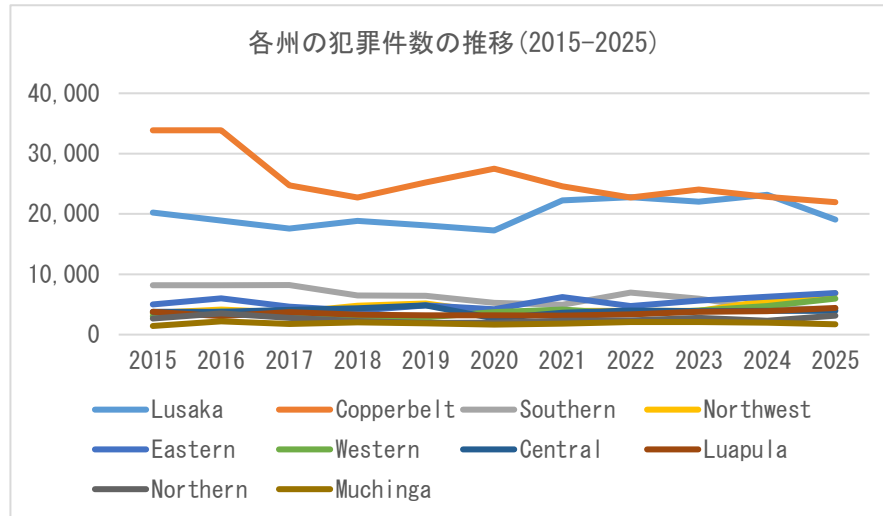
また、コンパウンド（Compound）と呼ばれる低所得者居住地域では、常に多くの人々が車道を歩行しているため、車両での通行は困難です。タウン地域のマーケットは旅行ガイドでも紹介されていますが、身边には十分な注意が必要であり、こうした地域においては、徒歩での移動や夜間の外出に特に警戒が必要です。徒歩での移動は極力避け、車両を利用するよう心がけてください。

（ルサカ市内の注意を要する地域等は、別紙第1「ルサカ防犯マップ」を参照。）

ウ 最近の犯罪発生状況

(ア) 犯罪統計

a 年間犯罪件数



年間犯罪件数を比較すると、2025年は人口が多いルサカ州及びコッパーベルト州では減少傾向にあるものの、引き続き多くの犯罪件数が確認されています。

b 100万人当たりの州別主要犯罪件数（上段は2025*年、下段は2024年）

	殺人	強制性交	車両窃盗	放火	強盗	窃盗	傷害	合計
ルサカ	33	10	12	102	41	2,465	1,622	4,285
	30	10	13	110	62	2,098	1,845	4,168
コッパーベルト	57	22	10	50	32	1,539	873	2,584
	70	13	9	52	18	1,164	893	2,219
南部	36	15	13	22	6	761	324	1,178
	31	5	9	9	14	626	305	999
北西部	55	7	54	20	10	1,910	2,029	4,086
	35	8	35	10	8	1,001	1,558	2,655
東部	39	9	27	48	2	1,308	372	1,804
	33	5	31	50	7	876	303	1,305
西部	81	36	47	17	1	1,566	1,240	2,989
	65	13	43	22	6	960	980	2,089
中央部	55	8	5	15	9	696	281	1,069
	46	12	9	21	12	560	239	899
ルアプラ	38	13	25	11	10	1,056	784	1,936
	34	14	37	8	10	666	668	1,437
北部	31	5	20	9	4	788	435	1,291
	29	4	16	3	4	389	268	713
ムチンガ	112	16	30	94	13	533	262	1,062
	96	17	36	106	8	420	295	978
日本	8	34	6	12	52	4,174	191	4,477

上記は、2024年と2025年の主要な犯罪種別発生件数を100万人当たりで比較したものです。日本の100万人当たりの主要犯罪件数と比較すると、ザンビアでの殺人、放火及び傷害の発生数は顕著です。

特に、邦人の居住が多いルサカ州とコッパーベルト州では、窃盗が顕著に増加しており、所持品への盗難対策を徹底する必要があります。

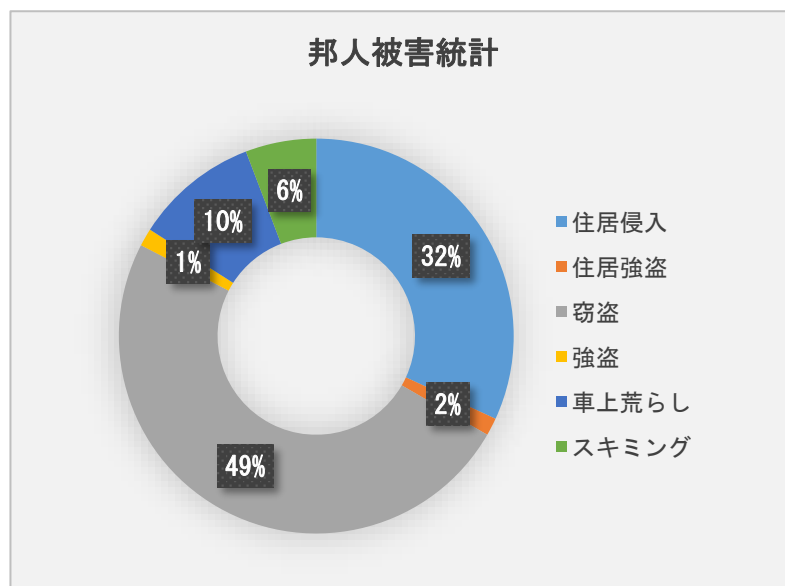
また、鉄道及び空港においても殺人等の凶悪犯罪の発生が確認されている上、高い頻度で窃盗・傷害が発生しているため、十分な注意が必要です。

詳細データは別紙第2「州別統計（2025年）」をご確認ください。

（イ）邦人被害状況

a 邦人被害件数一覧表（2018年～2025年3月）

	住居侵入	住居強盗	窃盗	強盗	車上荒らし	スキミング	合計
件数	22	1	34	1	7	4	61



当館に寄せられた近年の邦人被害は、窃盗が半分近くを占めており、次いでスリや置き引き、車上荒らしやスキミング被害も発生しています。また、住居に押し入り、邦人をトイレに押し込めて金品を強奪した事件や邦人が保持していた携帯電話を強奪した事件も報告されています。

b 近年の邦人被害状況

(a) 車上荒らし（ショッピングモール駐車場）

夕刻 17 時頃、ルサカ市内のショッピングモール駐車場に駐車していた車両の鍵をこじ開けられ、後部座席に置いていたバッグ類が盗まれました。携帯電話や電子手帳等が窃取されましたが、邦人に身体的な被害はありませんでした。

(b) 侵入窃盗（自宅）

東部州チパタで、朝から勤務先で仕事をし、16 時頃帰宅した邦人が、自宅裏口及びグリルドアの一部が破壊され、寝室の窓に設置されていた防犯格子の一部が壊されていることに気づきました。自宅に入ると寝室以外の部屋には被害がなかったものの、寝室内の棚に置いていた現金 1,500 クワチャ、100 米ドル、リュック、洋服数点の盗難被害に遭いました。邦人に身体的

な被害はありませんでした。

(c) 住居からの現金盗難（内部犯行の可能性）

未明、ルサカ州の邦人宅において、外出中に引き出しに保管していた財布から現金約 7,000 クワチャが抜き取られていました。住居には鍵がかかっており、現金以外の被害はありませんでしたが、メイドや大家がその住居の鍵を所持していたとのことです。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(d) 警備用備品の持ち去り未遂

19 時頃、ルサカ市の日本大使館前で、不審な 4 人組がトラック 1 台で大使館前に乗り付け、増改築工事関連の邦人企業が警備員のために使用するボックスを無断で運び出そうとしましたが、大使館門衛所の警備員と警備会社の緊急対応チームがその動きを阻止しました。その後、1 名が警察に逮捕され、残りの者は車両で逃走しました。なお、この集団は現地の電話会社の社員を名乗っていました。

(e) デモ隊による車両損壊

15 時頃、ルサカ市レオパーズヒル通りで、車両を運転中の邦人が、選挙運動中の政党支持者の車列（約 20 台）に追い抜かれる際、当該車列の車両から身を乗り出した 1 名により車両の側面を殴打されました。人的・物的被害はありませんでした。

(f) 車内侵入によるひったくり

20 時頃、ルサカ市ターボムベキ通りで、車両を運転中の邦人が信号で停止した際、助手席ドアから現地男性が車内に侵入し、手にしていた携帯電話を奪われました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(g) クレジットカード不正使用の可能性

邦人が使用するクレジットカード会社から、「暗証番号の入力ミスにより利用が停止された」との連絡がありました。邦人自身に暗証番号の入力ミスをした事実はなく、事前にルサカ市カブロンガ地域セントロモールにある ABSA 銀行の ATM でそのカードを使用したとのことです。

(h) サイドミラー部品の盗難

午前 10 時頃、ルサカ市ンゴンベ（Ngombe）で、路上に車両を駐車し、約 1 時間後に戻った邦人が、サイドミラーの鏡部分がなくなっていることに気づきました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(i) ひったくり（徒歩移動中）

19 時頃、ルサカ市ケニヤッタ通りを徒歩移動中、後方から接近してきた車両の後部座席から窃盗犯が身を乗り出し、たすき掛けにしていたボディバッグを奪ってそのまま車で逃走しました。被害者はバッグを奪われる際に引きずられたものの転倒はせず、身体的な被害はありませんでした。

(j) 酒に酔った際の盗難（バー）

ルサカ市のバーで友人と飲食していた邦人が、女から声をかけられ、飲食を共にしました。解散して帰宅しようとタクシーに乗り込んだところ、女がタクシーに乗り込んできました。邦人が話しているうちに酔いが回り眠り込んでしまったところ、女が当該邦人のバッグを奪おうとしたため、タクシーに同乗していた現地人の友人が阻止しようとしたところ、邦人のバッグの中身が車外に散乱しました。女は地面に散乱した邦人のパスポートと携帯電話を奪って逃走しました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(k) 侵入窃盗（自宅）

ルサカ市ロングエイカーズで、朝から勤務先で仕事をし、19 時頃帰宅した邦人が、リビングに置いていたノートパソコンがなくなっていることに気づきました。家の中を点検すると、自宅裏口の窓枠、窓の鍵、および鉄格子扉の鍵が破壊されていました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(l) ひったくり（駐車場）

17 時頃、ルサカ市マスメディアの商業施設駐車場で車に戻ろうとした邦人が、隣に停車した車から降りてきた男に肩掛けバッグを奪われ、犯人はそのまま逃走しました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(m) すり（路上）

コッパーベルト州キトウェで、路上を歩行中の邦人が、後方から一定の距離を置いてついてきた男に「足を踏んだ」と因縁をつけられ、手をつかまれました。男はその場を立ち去り、邦人は後になって財布が盗まれていることに気づきました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(n) ひったくり（路上、抵抗による負傷）

13 時頃、ルサカ市ロングエイカーズで、路上を歩行中の邦人が、通り過ぎた車の助手席から男に肩掛け鞆をつかまれました。邦人が抵抗したため、約 5 メートル引きずられ、肘に擦り傷を負いました。

(o) 住居侵入未遂

午前 1 時頃、ルサカ市内の邦人宅に男が施錠されていない窓から侵入しました。男は包丁を持って家の中を物色しましたが、家人の物音で逃走しました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(p) ひったくり（駐車場、抵抗による負傷）

夕刻、ルサカ市カブロンガの駐車場で、買い物から戻った邦人が、別の車から身乗り出してきた男にたすき掛けにしていたバッグを奪われました。邦人がバッグを離さなかったため、数メートル引きずられ、膝に擦り傷を負いました。

(q) ホテル客室からの盗難

17 時 30 分～18 時頃、ルサカ市オリンピアの宿泊施設で、邦人が部屋を約 30 分ほど離れた隙に何者かが侵入し、鍵付きクローゼット内にあった現金（約 1,000 ドル相当）、マイナンバーカード、運転免許証、健康保険証、クレジットカード 2 枚が盗まれました。クローゼットにはこじ開けられた跡がありました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(r) 貴重品の窃盗（サファリ中の宿泊施設）

サウスルワングワ（東部州）を観光目的で訪れていた邦人が、サファリ中に宿泊施設に戻った際、室内に残っていた貴重品（現金 1,200 ドル、クレジットカード 1 枚）がなくなっていることに気づきました。被害者の証言によると、財布は金庫に格納せず、鞆の奥にしまっていたとのこと。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(s) 計画的な侵入窃盗（自宅）

雨の降る深夜、何者かが降雨時の夜間に外壁上部のレザーステールワイヤーを押し曲げて邦人宅の敷地内に侵入しました。さらに、玄関のグリルドアの南京錠を破壊し、木製ドアをバーンのようなものでこじ開けて室内に侵入し、キッチンやリビング内の物品を窃取しました。こ

の家は外壁にレザーステッドワイヤーがあり、玄関も二重ドアでグリルドアに複数の南京錠が設置されているなど、ハード面での対策が講じられていたにもかかわらず侵入されました。施錠が徹底されていた状況での侵入であったことから、犯人はこの家の内部事情に精通した者による犯行、または悪天候の時間帯を狙って計画的に敢行した可能性が考えられます。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(t) ナイトクラブでの窃盗（財布）

ルサカ市内のナイトクラブで飲食をしていた邦人が、帰り際に財布がないことに気づきました。後日、防犯カメラの映像を確認したところ、店内で親しげに飲食や会話を求めてきた男が、被害に遭った邦人の鞆の中から財布を窃取していたことが判明しました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(u) 車上荒らし（ショッピングモール駐車場）

13 時頃、ルサカ市内のマンダヒルショッピングモール駐車場にて、邦人が買い物の荷物を自身の車内に積載し、カートを定位置に戻しに行った隙に、同車両の後方に止めていた車から数名が降りてきました。彼らは邦人の車両内に置いてあった鞆（現金、キャッシュカード、免許証入り）を窃取し、そのまま立ち去りました。邦人に身体的な被害はありませんでした。

(v) ひったくり（路上）

朝6時半頃、ルサカ市内（Salama Park通り）を徒歩で通勤していた邦人女性が、背後から近づいてきた車両の助手席に乗車していた何者かにひったくられました。被害に遭ったのは、現金（500クワチャ）、ザンビア滞在許可証、クレジットカード等が入った財布と、仕事用パソコン等が入った鞆でした。

（３）防犯のための具体的注意事項

ア 住居

（ア）犯罪傾向

旅行や一時帰国等で長期不在にする際や就寝中に住居に侵入され、現金、貴重品などを盗まれることがあります。また、敷地内の使用人や警備員が犯罪者を指南して、共同で犯行を行う事例も報告されています。

（イ）対策

① 立地場所

- ・周辺に治安の悪い場所はないか。
- ・セキュリティ対策は万全か。
- ・警備会社（警備員）は信頼に足るか。

② 家の構造

- ・外壁は十分な高さ（2.5m程度）があり、有刺鉄線及び電気柵が設置されているか。
- ・敷地内に防犯灯が設置され機能しているか。
- ・窓や扉に堅固なバーグラバーが設置されているか。

③ 外出・長期不在、就寝時

- ・カーテン等で室内を外から見えないようにする。貴重品を外から見えるところに置かない。
- ・休暇で長期間不在にするという情報を不必要に他言しない。
- ・新聞や水等の定期配達を一時停止する。

イ 外出時

（ア）犯罪傾向

① 車両窃盗

交差点等での停車時に、開いた窓から車内に手を入れられて、座席に置いてあるバッグや手に持っていた携帯電話を盗まれることがあります。

② 車上荒らし

ショッピングセンターの大型駐車場に駐車中のところ、窓や鍵を壊されて車内からパソコン、携帯電話等の貴重品を奪われることがあります。

（イ）対策

① 車両窃盗

- ・不必要な夜間の行動は避ける。
- ・減速・停止する前に周囲を確認する。
- ・不審人物、不審車が近くにいる場合は窓の閉鎖、鍵の施錠を確認して、可能であれば停車せずに通り過ぎる。

② 車上荒らし

- ・貴重品を車内の見えるところに置いておかない。
- ・モール入口や監視カメラが設置されているところに駐車する。
- ・鍵の施錠、窓の閉鎖を確実に確認する。
- ・警備員の行動に不審な点がないか気をつける。

ウ 生活

(ア) 犯罪傾向

ホテルや飲食店で食事中に、椅子の下等にバックを置いていたら盗まれる、又は路上で徒歩移動中に背負っていたリュックから携帯電話や財布を盗まれることがあります。あるいは、同じく歩行中に肩掛けバックをカッター等で切られて財布を盗まれる事例も報告されています。

(イ) 対策

- ・ 不必要な夜間の行動は避ける。徒歩移動を控える。
- ・ 不必要な貴重品の持ち歩きは避ける。
- ・ バックは肌に触れるように携行して周囲に注意を払う。

エ その他

(ア) 犯罪傾向

① タクシー利用時

タクシー乗車後に突然見ず知らずの乗客が乗車し、見知らぬ場所に連れて行かれ、貴重品を奪われた後、女性が強姦被害に遭ったという報告があります。

② スキミング

空港やショッピングモールに設置されている ATM を使用した際、クレジットカード情報を盗まれて、無断でカード決済に使用される可能性があります。

(イ) 対策

① タクシー利用時

- ・ 政府系タクシー（車体部にオレンジ色の線が入っている）を利用する。
- ・ 信頼できる人から運転手を紹介してもらう。
- ・ 運転手情報が管理されているアプリケーション等を利用する。

② スキミング

- ・ カード挿入口に不審な装置が設置されていないか。
- ・ レジ等でカードを使用する際は目でカード読込端末を操作させる。
- ・ なお、当地の銀行で発行されるデビットカードは設定により取引後に SMS で通知する機能を持つものがあります。

(4) 交通事情

ア 概要

当地では公共の場において歩行者、バイクよりも車が優先されることが一般的です。また、当地の運転技量やマナーは低く、無理な追い越しや急停車、逆走、一時不停止や飲酒運転などが横行しています。特にミニバスの運転マナーは悪く、上記のような悪質な走行をすることがあります。また、道路状況は決して良くなく、路面の陥没、バンプの設置、事前案内のない工事による車線規制が行われることがあります。

イ 対策

(ア) 常に安全運転（他者の不注意な行動や予測不能な動きをあらかじめ想定することも含め）に心がけ、自ら事故を起こさないようにする。

(イ) 整備不良車両やミニバス等から距離を取って走行し、事故に巻き込まれないよう注意す

る。

ウ 事故発生時の対応

（ア）周囲の安全を確認する。周辺に多数の住民が集まり暴徒化する場合は、身の安全確保のために車外に出ない、又は安全な地域（最寄りの警察署等）に避難する。

（イ）怪我人がいないか確認して救助する。

（ウ）警察に通報する（２（６）緊急連絡先参照）。

（エ）相手の氏名、連絡先、免許証番号、保険番号、車のナンバープレートの番号を記録する。

（５）テロ・誘拐対策

ア 概要

ザンビアにおいては、テロ組織・反政府組織や国際的なテロ組織の関連組織の活動は確認されていませんが、周辺国（モザンビーク、ソマリア等）のテロ組織がザンビアに浸透してくる可能性について、治安当局は警戒を強めています。

当地での外国人子女を標的とした誘拐に関し、2021年9月にルサカ州において、12歳と9歳のインド系の女兒が使用人（メイド）に誘拐される事件が発生し、2日後にカバナナ・コンパウンド（Kabanana Compound）の借家で無事に発見されました。逮捕された使用人は、給料が低くよりお金が欲しかった旨の供述をしています。過去には、2014年当地ドイツ大使館員子女がドライバーにより営利目的で連れ去られる事件が発生しており、十分な注意が必要です。なお、ザンビア人子女を狙った強姦は数件発生しており、2020年2月ムチンガ州において14歳少女が男性4名に集団強姦され、また、同年8月同州において11歳少女が不審者に強姦の上殺害される事件が発生しています。

イ 日本人・日本権益に対する脅威

現在のところザンビアにおけるテロの脅威は高くなく、また、日本人が標的にされる可能性は高くありません。しかし、偶発的な事件・事故の際に巻き添えとなる可能性は十分に考えられますので、注意を怠らないことが重要です。一般的にテロによる日本人の被害は、シリアやアフガニスタンといった、渡航中止勧告や退避勧告が発出されている国・地域に限られません。テロは、日本人が数多く渡航する欧米やアジアをはじめとする世界中で発生しており、これまでもチュニジア、ベルギー、バングラデシュ、スリランカ等においてテロによる日本人の被害が確認されています。

近年では、単独犯によるテロや一般市民が多く集まる公共交通機関等（ソフトターゲット）を標的としたテロが頻発するなど、テロの発生を予測し未然に防ぐことがますます困難となっています。

ウ 対策

（ア）海外安全ホームページや報道等により最新の治安情報の入手に努める。

（イ）多数の人が集まる場所に近づかない。

（ウ）危険な地域や夜間の不要な外出をしない。

（エ）不審物は不用意に触らず警察に連絡する。

(6) 緊急連絡先

連絡先 (優先順位) 地域	病院名	電話番号
ルサカ	UTH (The University Teaching Hospital)	0955-876164, 0974-318820
	(ザンビア大学付属教育病院)	
	Fairview Hospital	0211-373000, 0950-203159
	(フェアビュー病院)	
	Care for Business Medical Center	0211-254398, 0211-252917
	(ケア・フォー・ビジネス・医療センター)	
	Coptic Hospital	0962-202295, 0211-290508, 0978-917883
	(コプティック病院)	
	Dr. Agarwal's Eye Hospital	0211-237560, 0953-489312
	(Dr. アガワル眼科病院)	
	Victoria Hospital	0211-290985, 0955-255798
	(ビクトリア病院)	
	PearliWhyte Dental Solution	0211-220828, 0211-220837, 0977-606364
	(パーリホワイト・デンタルソリューション)	
	St. John Paul II Mission Orthopaedic Hospital	0211-254601, 0975-206-986
	(聖ヨハネパウロ2世ミッション整形外科病院)	
	Medland Hospital	3111, 0761-101-600, 0975-177777
	(メドランド病院)	
リビング ストン	Optimal Medical and Wellness Centre	0211-236201, 0962-771859
	(オプティマル医療・健康センター)	
	Forestpark Specialised Hospital	0965-273649
	(フォレストパーク専門病院)	
リビング ストン	Livingstone General Hospital	0213-321436, 0213-320221
	(リビングストン総合病院)	
	SES (Specialty Emergency Services)	0977-740306
	(専門緊急サービス)	

3 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

(1) 平素の準備と心構え

ア 概要

日頃から自身や家族の安全に注意を払うことが、犯罪や事件に巻き込まれないための最大の防御術です。緊急事態が発生しても、まず普段の心構えに立ち返ってください。その上で、大使館との連絡手段の確保、緊急時の行動要領の確認、物の準備（「緊急事態に備えてのチェックリスト」を参照）を確認して下さい。

イ 在留届等の提出

在留届及び「たびレジ」は緊急事態が発生した際、大使館との連絡確保のために極めて重要です。ザンビアに3か月以上滞在する方は、オンラインによる在留届電子届出システム（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>）を通じて、在ザンビア日本国大使館に「在留届」を提出してください。日本から転居する場合には、住所が決まっていなくても、日本出発の3か月前からオンライン提出が可能です。この他、住所及びその他届出事項に変更が生じたときは「変更届」を、日本への帰国や他国に転居する際には「帰国・転出届」を、在留届電子届出システムを通じて必ず提出してください。

また、在留届の提出義務のない3か月未満の短期渡航者の方（海外の在留地から第三国への短期渡航も含む）は、「たびレジ」への登録をお願いします（<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>）。「たびレジ」は、滞在先の最新の安全情報などを日本語のメールで受け取れる外務省のサービスです。自然災害等が発生し、在ザンビア日本国大使館が安否確認を行う際にも利用されます。安全情報の受取先として、家族・同僚等のメールアドレスも追加登録できます。

ウ 緊急避難場所

緊急事態発生時のザンビアにおける邦人の緊急避難場所は、大使館、大使公邸及び JICA 事務所です。詳細は3(4) ルサカ防犯マップを参照して下さい。

(2) 緊急時の行動

ア 緊急時の連絡要領

(ア) 安否確認要領

緊急事態が発生した場合は、大使館から安否確認等の連絡をします。この際、当初 SMS 及び e-mail で一斉送信を行いますので、必ず家族を含めた安否確認を実施し、返信をして下さい。

(イ) 大使館からのFM放送

電話回線網やインターネット回線が使用できない場合、大使館からの情報連絡手段の一つとして FM 放送（大使館から約 35km 圏内）を使用します。周波数は、100.90MHz です。よって、事前に FM ラジオのご準備をお願いいたします。

イ 情報の把握と共有

(ア) 大使館が危険性のあるデモ・暴動等に関する情報を入手した場合、迅速に領事メールやフェイスブックにて皆様にお知らせします。

(イ) 皆様がデモや暴動等、安全に関わる情報を入手された場合には、速やかに大使館に連絡いただくようお願いします。

ウ 身の安全の確保

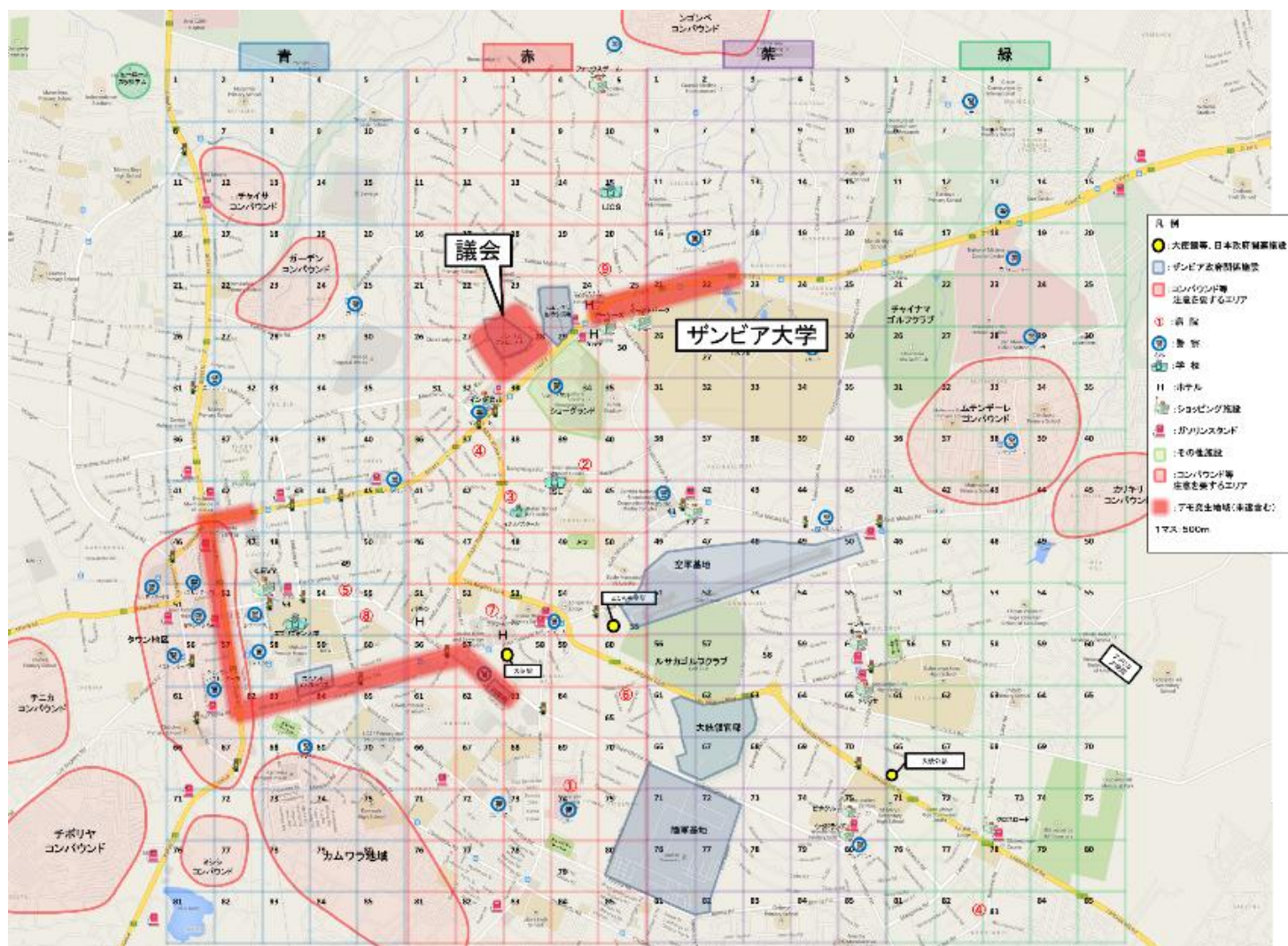
- (ア) 緊急時には、信頼できる情報の入手に努めてください。当国では不正確な情報やデマが拡散することが多々あり、注意が必要です。
- (イ) 事態を冷静に把握し、リスクの高い行動を避けてください。
- (ウ) 大使館から情報提供があった場合、必要あれば、その際の伝達事項に従って退避等をご検討ください。
- (エ) 国内外、市内等の安全な地域（知人宅、ホテル等）へ移動した後は、必ず大使館に安否を連絡ください。

(3) 緊急事態に備えたチェックリスト

項 目	内 容	レ点
携帯電話等	携帯電話（スマートフォン）	
	モバイルバッテリー	
	通信プランは通話・通信可能な状態か（プリペイドの残高等）	
パスポート	6 か月以上の残存有効期限があるか （ない場合は大使館へ再発給の申請をしてください）	
	所持人記入欄の記入	
身分証明書	I D、外国人登録書、滞在許可証を非常時に持ち出すことができるか	
貴重品	現金（家族全員が 10 日程度生活できる外貨）	
	貴金属	
	銀行カード	
	クレジットカード（紛失時の連絡先含む）	
自動車等	整備状況は良好か	
	燃料は十分に入っているか	
	懐中電灯・地図・ティッシュ等の備え	
	自動車のない人は近くに住む自動車所有者との連絡態勢は確保されているか。必要なときに同乗できるように相談しているか。	
携行品	衣類・着替え（華美な物は避ける）	
	履き物	
	洗面用具	
	飲料水	
	非常用食料	
	※しばらく自宅待機することを想定し、家族が 1 週間から 10 日程度生活できる量を備蓄 ※上記から移動時用物品を選別できるように	
医薬品	家庭用常備薬、外傷薬	
	衛生綿・包帯、絆創膏	
	常時服用している薬（※ある人）	
ラジオ	電池の残量は十分にあるか	
その他	懐中電灯	
	必要な炊事用具	
	マッチ・ろうそく・ライター	
	缶切り・栓抜き	
	予備バッテリー（電池等）	

ルサカ防犯マップ

1 ルサカ市全体



【在留邦人向け防犯マップ】

- ・ 大使館：赤 58
- ・ 大使公邸：緑 66
- ・ JICA 事務所：赤 55

2 大使館周辺



州別統計 (2025 年)

